

令和元年度 第2回学校評議員会記録

岩手県立盛岡となん支援学校

I 目的

本会議は、地域住民、保護者、地域関係機関等の代表である学校評議員が、児童生徒や学校の現状を理解したうえで学校の運営について意見を述べ、学校運営を支援することを目的とする。

II 日時

令和2年2月7日（金） 9：30～10：30 校内見学、授業参観
10：30～11：30 学校評議員会

III 会場

本校視聴覚室

IV 出席者

学校評議員：山内雄幸（第二新生園施設長）、高橋賢誠（県立療育センター事務局長）、
小山田 孝（矢巾東小学校長）、吉田香津美（PTA 副会長）

学校職員：校長、副校長、事務長、総括教務主任、各学部主事、訪問教育部主任、
自立活動支援部主任、進路支援部主任

進行・記録：担当副校長、総務部担当者2名

V 次第

1 開会のことば

2 校長挨拶

短時間ではあったが、学習の様子を見ていただいたことに感謝申し上げます。今年
は積雪が少なく、凍結による児童生徒の事故、怪我がなく、登校・通勤に支障がな
い状況である。校内ではインフルエンザの流行もなく、児童生徒は元気に登校して
いる。健康面で弱い子どもたちも多いので、子どもの様子については毎日気をつ
けている。例年のことだが寒さ、感染症の対策・管理を十分にしながら進学、進級、
卒業のまとめの大事な時期を迎えたいと考えている。本日は学校評価や教育活動を
報告するので、次年度に向けて委員の皆様から忌憚のないご意見を賜りたい。

3 学校評議員紹介

4 学校職員出席者紹介

5 報告

(1) 令和元年度学校評価（自己評価）実施結果について

山内 雄幸 評議員

「ACT等の用語は初めて聞いた。わかりやすく説明していただきありがたい。
学校アンケートで地域交流への生徒の満足度100%であるのに対して保護者の満
足度が下がったようだが活動の内容の具体的な指摘はあるか。」

学校

副校長「活動内容の具体的な指摘ではないが、『集まって楽しく過ごすだけでは

なく、学習活動として充実にしたものにしたい。』、『一般的に交流の時間が短いので、更に長い時間の学習をしたい。』といったことが要望としてあがっている。」

高橋 賢誠 評議員

「さきほど説明のあったとおり、県立療育センターも移転してきて大変環境が変わった。学校と共にお互いに情報共有したい。」

小山田 孝 評議員

「子どもの満足度の高さや自信をもって取り組んでいる比率が高いことに素晴らしいと感じる。漢字検定等にチャレンジしていく取り組みが素晴らしい。感想になるかもしれないが、昨年矢巾東小学校二年生と小学部の子ども達が交流した。感じたことは二年生という落ち着いた子も多い中、交流をしている中で、大変穏やかな表情をしているのが印象に残った。いつもはいたずらしている子が丁寧に車椅子を押す姿がみられ、こちらがありがたいと感じて交流の様子を見させてもらった。盛岡となん支援学校の子どもたちは交流してどういった感想をもったか、その後の生活で変化等あれば聞かせていただき、持ち帰り報告したい。

学校

小学部主事「本校児童も多数の児童と接する機会がないので楽しみに当日を迎えた。最初は緊張していたがグループ活動ではうちとけ喜んでいる姿があり、『また、やりたい。』という感想を交流後に話す児童もいて、とても有意義だったと感じた。」

中学部主事「年2回見前中と交流を行っていて、移転前から継続している。1回目は本校の生徒達が、2回目は見前中の生徒達が企画している。見前中生徒の中には3年間参加してくださる方もいる。本校生徒が『あの子見たことがある。』といった話題を話すこともあり、打ち解けていく積み重ねがとても大切だと感じる。事前学習して当日を迎える中で、見前中生徒を見て『ああいう生徒になりたい。』といった感想をもつ生徒もいる。お礼のカードを書いたり活動の中で、『次の交流はこうしたい。』と次に向けてのことを考える生徒もいる。」

吉田 香津美 評議員

「保護者目線になるが、情報機器の活用には期待している。交流、居住地交流はハードルが高く、行きにくさを感じている保護者もいる。内容等は学校で検討しながら進めていただいてありがたい。」

学校

副校長「本校の児童生徒は大集団での生活経験が少ないので、一人で居住地交流にいくと緊張感が先に立って、短時間ではすぐにはほぐれないこともあると思う。学校間交流において、集団で交流をする機会は本校にとってありがたいチャンスだと思っているので、今後ともよろしくおねがいしたい。」

校長

「交流及び共同学習という文言は、前回の学習指導要領のキーワードとなっている。他県では学校間で調整して実施しているが、岩手だけは交流及び共同学習を教育委員会を介して指定して地元の学校に副次的な籍を置くという独特なシス

テムをとっている。見前中交流は学校間交流として実施している。ここであがっている交流及び共同学習はあくまでも保護者の希望で申請して教育委員会を經由して申請したものを許可して実施というものになっている。独自の斬新的な交流とすることができるが、いずれ子どもたちが地域に帰る、地域で生活するインクルーシブ教育がベースとしてある。小学生中学生対象だが、県内の交流件数としては増加しているの、成果として上がっていると感じる。」

- (2) 各学部の取り組みについて
- (3) 相談支援事業について
- (4) 進路状況について
- (5) その他

6 意見交換（各評議員からのご質問・ご意見）

山内 雄幸 評議員

「先生たちの説明は丁寧で、授業参観もしてイメージを持って具体的にわかった。小学部の取り組みであった公共交通機関の利用について説明いただいたが、具体的に教えていただきたい。中学部の方でも、いろいろな職業を知る体験があり、その中で生徒の興味がある職業にはどういった傾向があるのか、あれば教えていただきたい。」

学校

小学部主事「小学部は、矢幅駅から電車で盛岡駅に行って構内で食事をしてもどる。行きは電車帰りはスクールバス。駅の方にもよくしていただいた。」

中学部主事「興味のある職業として、生徒が知っている仕事、親の仕事、教師、病院の仕事の職種が出るが、最近はパティシエ、ケーキ屋になりたいというのが女子に多い。年頃ということで、ネイルアーティスト、髪に関わる職業についてあげる生徒も多い。」

高橋 賢誠 評議員

「就労先の進路については県立療育センターの育成部もそうだが、高等部の説明にもあったとおり高等部に入って安心してしまうという話を伺った。入学してすぐ進路は始まる。今後とも盛岡となん支援学校と協力しながら次の行き先について考えていかなければならないと思う。」

小山田 孝 評議員

「販売活動のコーヒーをおいしくいただいた。これからもいろいろと協力していきたい。お願いになってしまうのかもしれないが、盛岡となん支援学校は外部とのつながりをもとに教育活動をしているが、公立の小中学校も地域とのパートナーシップがいられている。来年度から矢巾町の全小中学校でコミュニティースクールとしてスタートする。地域の方々の結びつきを強めながら、教育活動を進めていかなければならないと思っているところだ。盛岡となん支援学校も地域の方々の結びつきといったことを考えた時に、公立小中学校で学びフェストという言い方をしているが、その年の重点目標を決めて学校だけではなく、地域の皆さんと一緒にやってみようという取り組みをしている。本校もこれから一層地域の皆様に学びフェストを発信し、みんなで子どもを見てください、子どもに声をかけてくださいと働きかけていかなければいけないと思っているところだ。そういったことを考えると、盛岡となん支援学校の職員にも駐車場からの通

勤途中で矢巾東小学校児童の心配な行動を見かけたら指導するとか一報をいただきたい。挨拶を励行しているので、盛岡となん支援学校の先生方にも見守りながら先生方からも挨拶の声を掛けていただきたい。今後も盛岡となん支援学校と連携して進めていきたい。」

校長

「コミュニティースクールは小中、自治体を中心となって進めている。学校運営評議員会制度で、おそらくメンバーに違いはあるだろうが、委員とすると地域の方、保護者、教育委員会等がメンバーかと思う。特別支援学校は県立の学校なので、学校独自では厳しいところがあると感じている。まだ先と思っているが、実際普通の学校でも障がいのあるお子さんもいらっしゃる中で、この中に本校から委員として加わる形が可能かと私自身はとらえている。何かの機会に相談していただければと思っている。」

吉田 香津美 評議員

「地域、関係機関に協力していただき保護者代表として御礼申し上げたい。先生方に一人一人違う子どもを見守り指導していただき感謝している。3月、4月と新年度を迎え、乗り越えなければならない時期になっている。今後ともよろしくお願ひしたい。」

7 校長より

校長

「貴重な意見をいただきありがたい。ぜひ参考にさせていただきたい。県立療育センターと移転して2年過ぎようとしている。県立療育センター、移転した岩手医大というところについては医療、教育含めてなのだが、矢巾町にはあるが療育センターは岩手県全域、医大は北東北からの入院のみならず、全国からも来ている状況。そういった中で地域との関わりが一番の課題というところがある。今年の4月から岩手医大の中の訪問教育は本校が担当する。今は盛岡青松支援学校が担当しているが、4月からは本校が担当する。医大移転に伴って新設された児童精神科も訪問教育を実施する。本校が担当する訪問教育が一举に施設訪問・在宅訪問から2つ増えるということになる。医大に関わっては肢体不自由ではなく病弱の扱いであるので4月からは肢体不自由に病弱を併せた併置校になるので、今以上に新たな学校経営が求められる。先ほど話していた医療施設の充実ということで環境が大きく変わっているので、本校が今後果たしていく機能・役割はどのくらいになるかは未知数の部分もあるが、いずれそういった障害のある方が多く入ってくる学校であると思われる。そういう意味で安全、安心な学校作りの強化が求められるので、それを達成する意味でもこれからも評議員の皆様にはお力添えをいただきたい。」

8 その他

9 閉会の言葉

VI 配付資料 「学校評価アンケート」、「参観授業一覧」